

令和6年度 福祉コミュニティエリア整備事業（生涯活躍のまち形成事業）
地域再生協議会 会議概要

■ 日 時

令和6年8月30日（金） 15時00分～16時00分

■ 場 所

函館市役所8階 大会議室

■ 内 容

1 開 会

2 議 事

(1) 地域再生計画における令和5年度目標達成状況について

3 そ の 他

4 閉 会

■ 配付資料

資料1 令和5年度 目標達成状況

資料2 居住者数に関する補足資料

資料3 多世代交流センターの利用状況

■ 出席委員（9名）

河原委員，菊池委員，齋藤委員，桜井委員，武田委員，原委員，平野委員，
平田氏（伊東委員代理），藤林氏（川村委員代理）

■ 随 行 佐藤多世代交流センター長

■ 傍 聴 0名

■ 報道機関 1社

■ 事務局職員

保健福祉部地域包括ケア推進課 横山課長，渡辺主査

■ 会議録（要旨）

渡辺主査（地域包括ケア推進課）

ただいまから、令和6年度福祉コミュニティエリア整備事業（生涯活躍のまち形成事業）地域再生協議会を開催する。

なお、本日は伊東委員、川村委員が都合により欠席となっているが、社会福祉法人創生会の平田様、アルファコート株式会社の藤林様に、それぞれ代理として出席いただいている。

それでは、これからの進行は、齋藤会長にお願いしたい。

齋藤会長

それでは、議事を進めさせていただく。（1）「地域再生計画における令和5年度目標達成状況について」、事務局から説明願いたい。

渡辺主査（地域包括ケア推進課）

それでは、資料に沿って説明させていただく。

（資料1～3に基づき説明）

齋藤会長

事務局から説明があったが、何か質問や確認したいことはあるか。

平田さん、3つの介護施設が再開し順調に運営されているということだが、何か補足すること等があれば伺いたい。

平田氏

まず、今日現在の入居者数を報告させていただきたい。

特別養護老人ホームベルソーレの入居者は95名、待機者は8名となっている。グッドケア日吉は18名で満床、待機者は6名となっている。グッドタイムホーム日吉・壺番館と式番館は定員29名だが、それぞれ28名、27名の入居となっている。いずれの施設も待機者がいるので、入居者数が下降傾向となることはないと考えている。

齋藤会長

多世代交流センターについて、前回の協議会で、エリア内の商業施設や地域住民とコラボ等できたらいいのでは、という意見が出ていたと思うが、センターの運営について、補足や今後の展望等あれば伺いたい。

竹田氏

多世代交流センターについては、本日こちらに来ている佐藤センター長から説明させていただく。

佐藤氏

現在のセンターの運営で大きいのは、先ほど資料にもあったが、RONTAという軽食喫

茶である。開設してから今年で約2年半が経ち、順調に来ている。特に宣伝等しているわけではないが、口伝えでどんどん増え、令和5年度は、資料のとおり、5,378名の利用があった。営業時間は11時30分から午後3時30分までだが、一番利用者が多いのはランチの時間帯で、周囲に会社等はあまりないのだが、遠くから来てくださる方もおり、町会長さんをはじめ、地域の方にも来ていただいている。味もちろんおいしいが、値段が安いことが人気の理由なのだと思う。皆様も近くにおいでの際はぜひ利用いただければと思う。

年間行事としては、資料には載っていないが、創生会が行う大きな行事として、昨年度から1年に1回「ふれあい祭」を開催しており、500名前後の方に参加いただいた。今年度は9月21日に実施予定で、作成したチラシを参考に皆様にお配りしたい。(各委員に配付)小さい行事としては、フリーマーケットを月に1回程度のペースで行うなどしており、天気等にもよるが、大体100名前後の参加がある。また、当センターでは貸室も行っており、地域の方々のほか会社の会議等での利用がある。大きな宣伝等はしていないが、口伝えで伝わっているのか、現在はほぼ埋まっている。また、センター内のテナントも現在は全て埋まっており、空き室はない状況である。

齋藤会長

平野委員、多世代交流センターのカフェを利用されているとのことだが、何かご意見等あるか。

平野委員

市が整備した新しい地区について、町会の加入状況を報告させていただく。山の手日吉道通りの東側が日吉4丁目町会の第8区、西側のアークスと福ちゃん保育園の間の街区が第9区になる。第8区は36軒加入しており、3つの班に分けているが、1、2班は女性の方が「私が班長をやります」と積極的にやってくれている。あとの1つは私が班長をしているが、なかなか難しい。勧誘する時には先に案内のチラシを配り、2～3週間後くらいに私が訪問するが、加入してくれる方と、「忙しいから」と加入してくれない方がいる。また行っても「忙しいから」と。「忙しいから」は「来るな」ということかと思って、それ以降はあまり行かないようにしているが。第9区は18軒加入しており、あと25、6軒残っている。8区と9区とで、今日現在で54軒加入いただいております、未加入が33軒ほどある。

新入学児童は今年8名だったが、そのうち7名が第8・9区から入学していただいた。

先ほどセンター長からも説明があったが、町会としても、総会や毎月の役員会でセンターを利用している。私自身も週1回ミスポの体操に参加している。

そのほかに、創生会の介護施設の運営推進会議に参加している。グッドケア・日吉が5月23日、グッドタイムホーム・日吉壺番館と式番館が6月5日。7月28日にグッドケア・日吉の運営推進会議に参加した際には、雰囲気を楽しんでほしいということで、入居している方と食事をさせていただいた。

昨年の夏休みのラジオ体操でスズメバチに刺された子がいたので、今年は町会として救急箱を準備したが、幸いなことにハチは出なかった。

多世代交流センターのニュースやチラシは、センターの職員が持ってきてくれるので、町会で回覧している。

齋藤会長

武田委員はどうか。

武田委員

民生委員の立場から言うと、日吉町4丁目はエリアが整備されて人口が増えており、居住者の入れ替えもある。我々は年に1回、4月1日現在で確認をするが、特に支障は来していない。民生委員のなり手の問題というのはあって、新しく住む人にやってもらえればと思うが、我々も個別で動くことはできず、手続き・手順を踏まなければならない。エリアの状況が落ち着き、住民も生活に順応して落ち着いてきたと思うので、何かできればと思っている。私自身も隣の町会の副会長をやっているので、町会同士の連携はできていると思うし、福祉施設もあるので、今後も連携していければと思っている。

齋藤会長

桜井委員はどうか。前回、福ちゃん保育園としては、保護者の車の問題についてお話しされていたと思うが。

桜井委員

昨年は近所から2回ほど、保護者の送迎車について、きちんと対応してほしいとの苦情をいただいたので、それから1年間、毎朝自分が外に出るようにしてきたし、保護者にも駐車の方法を伝えてきたので、今年は今のところ苦情等はない。

地域との交流は昨年から少しずつ広がっており、今年も、多世代交流センターに家族の日の絵を展示したり、七夕に郵便局や施設にお菓子をいただきに行き交流したり、来月も敬老会の交流として、「志」や「わとな」にお遊戯や歌を披露しに行く予定である。

先ほど平野委員が、第9区の方たちの町会加入が難しいと言っておられたが、当園にもその街区に住む保護者の方が何人かいらっしゃる。ほとんどがご両親ともにフルタイムで働いており、開園の朝7時30分から夜6時くらいまでお子さんが園にいるような状態で、本当に忙しくて大変だろうと思っているので、ちょっと、聞いていて胸が苦しくなる。

平野委員

来るな、ではないと。

桜井委員

毎日仕事で忙しくて、余裕がないのだと思う。

齋藤会長

藤林さんは、これまでずっと関わってきているが、どうか。

藤林氏

現在は駐車場の維持管理のみの関わりになっている。

宅地に関しては、更地の区画が2つある。ハウスメーカーへの売却は済んでいるが、昨今の建築費の高騰等により、建て主がなかなか見つからないのかもしれない。もう少し建物が建って、完全にまちとして形づくられるには、まだ時間がかかると考えている。

駐車場は管理会社に委託しているが、今日見ると無断駐車が何台かあるようなので、管理をもう少し徹底してもらう必要があると感じた。もともと100台分以上のスペースがあり、今は3分の1くらいを創生会さんに借りていただき、その収入で維持管理をしなければならないので、決して利益を出すための土地ではないが、維持するためだけでももう少し収益が欲しいところであり、そこも含めて管理会社と協議して考えていきたい。

齋藤会長

河原委員は、エリアの構想策定時から関わっておられるが、どうか。

河原委員

質問だが、資料1のボランティア人数というのは、登録のみなのか、現場に来て活動してもらった人数も入っているのか。

渡辺主査（地域包括ケア推進課）

ボランティア人数は、多世代交流センターから登録人数と活動人数の合計だと伺っている。佐藤センター長から補足説明等あればお願いしたい。

佐藤多世代交流センター長

現在、ボランティアは資料に記載しているくらいの登録数で、目標の250人に達することとはなかなか難しい状況である。実際の活動としては、ふれあい祭などのイベントがあるときに、車の誘導や出店の後片付けなどのお手伝いをしてもらう等がメインである。ボランティアを増やしたいが、活動がなければ登録している意味もないので、もっと活動の機会を増やしたいとは思っている。今は、どのように登録してどんな活動をやってもらうかを考えているのだが、なかなかいい知恵がない。行事を増やすにも限界があり、難しい。

河原委員

現場では手伝ってもらいたいことは発生していて、その時にすぐに誰かに来てもらえるような仕組みや環境を作っていかなければならないのだと思うが、難しいのだろうと感じた。今後そういう仕組みができるといい、という感想を持ったところである。

コミュニティエリアには、介護施設や多世代交流センターなどの様々な機能を持ったハード施設があり、住宅もあり、それが他のまちにはない特色だと思うのだが、ただハードがあればいいということではない。例えば、介護度の重い方は難しいかもしれないが、特養の入居者がセンターに行く機会があったらどうだろうか。子供が施設に行くのは大変かもしれないので、特養の入居者がセンターに来て交流できないか。自分は、センターのような施設だからこそ、そこで生まれる何かがあると思っているのだが、入居者が実際にセンターに行って交流する機会などはあるのか。どんな方が入居しているのかわからないので、ちょっと視点がずれているかもしれないが。

平田氏

自分は7月からベルソーレに勤務したので、見えていない部分もあるが、入居者が多世代交流センターに行くとなると、食事を食べに行くことはできると思うが、特養の入居者は要介護3以上で、普通食では難しい方もいるので、食べられる方限定でならできるかもしれない。あとは、多世代交流センターと連携して「こういうことをやってみよう」と企画を立てないと、実際に行くことは難しいと思うので、そうした連携は今後の課題だと思っている。

河原委員

職員等の人手の問題もあるので、難しい面もあると思う。できたらいいなと思い、コメントさせていただいた。

平田氏

もう少し活性化できればと思っている。

齋藤会長

自分も先日所用で多世代交流センターに行ったが、周囲の芝生が結構元気に伸びていて、例えば、草刈りや花壇を作る、花を植えるなどは、ボランティアの活動にできるのでは、と思った。あるいは、そうした活動を地域の方達でやるのも一つだし、エリア整備構想では障害者の事業所も構成員に入っていたと思うので、そういうところに入ってもらうのも一つのやり方だと思う。今、創生会さんの体制になったので、改めて顔つなぎをして、一緒に活動できることがないだろうか、などと考えたが、河原委員、いかがか。

河原委員

いいと思う。ボランティアは何か手伝いたいという思いを持って登録していると思うので、役割を持つことで自分のモチベーションになってまた頑張る、といういい循環が生まれてくる。

昨日も齋藤先生と会って話したのだが、今は、若い人が入ってくると大人も変わるし、高齢の方も喜ぶ、お互いがウィンウィンの空間をつくることができる、ということがある。障害のある方が入ることによって、普段接する機会のない子供にとっても教育面で役に立つことがあるかもしれないし、大学生なんかが入るとまた違う相乗効果もある。チラシの月間スケジュールを見るとほとんど埋まっていて、素晴らしいと思うし、おそらく固定客が埋めているところも多いと思うので、そのあたりで、本当の「多世代」でつながることができる仕掛けがあると、さらにいいまちになると思った。口で言うのはたやすいのだが。

齋藤会長

渡島総合振興局の菊池委員はどうか。

菊池委員

今日の資料を見ると、創生会が入って以降、事業は順調に進んでいると思う。これは事務

局に聞くのがいいのかわからないが、直近の懸念点等はあるのか。

事務局

懸念は特にない。

菊池委員

まちとしての課題はあるのかもしれないが、エリアが形成され、計画上の問題がないのであれば、それでいいと思う。

齋藤会長

懸念点はないが、令和5年度の目標達成状況を見ると、地域福祉の相談件数とボランティア人数が目標値からちょっと遠いので、この数字をどう見るか、議論の余地があると思う。ボランティアについては、先ほどの話に戻るが、草刈りや環境整備などをボランティアや障害を持っている利用者と一緒にやるとか、既にセンターを利用している方の中に、ただ利用するだけではなく、このエリアのために何かしたいという人達がいれば、そういう人達に声をかけて何か提案してもいいのではないかな。そういうことを多世代交流センターとして企画してみたら面白いのではないかなと思った。

原委員、ご意見等あれば伺いたい。

原委員

資料の説明や皆様の発言にもあったように、多世代交流センターの利用者数は順調に伸びており、この間の創生会や地域の皆様のご協力があったおかげと思っている。フリースペースの利用者なども、令和5年度は前年度と同じくらいの利用があり、地域に根づいてきたと感じているし、多世代が集うというこのエリアでの取り組みを他の地域でも参考にできればと思っている。運動や介護予防など福祉の課題についても、教室が活発に開かれるなど、取り組みが進んでいると思う。また、今日話題になった花壇ボランティア等の新たな取り組みについても、市として協力できる部分があるかもしれない。平野委員や武田委員から発言のあった町会の加入や民生委員の件についても、市の課題として認識しているが、すぐに解決するというのは難しい。

齋藤会長

地域福祉の相談件数が72件の目標値に対して21件という点について、「福祉に関する相談窓口」としてよりも「地域住民の交流の場」として認知・活用されていることが要因なのだとすれば、センターとして今後ともその役割を担っていくべきと考えるのか、それとも、福祉の相談だったら包括ゆのかがあるでしょう、と考えるのか、ということになってくる。多世代交流センターの役割として膨らませていきたいのか、それとも地域包括支援センターに委ねるまたは連携を図っていくのか、佐藤センター長の考えはどうか。

佐藤多世代交流センター長

地域の福祉相談については、創生会の運営になって2年くらいの間は、隣が特養なので、

特養に入るにはどうしたらいいか、費用はどうか、といった相談があったが、最近はそういう相談はほとんどなくなった。原因を考えると、スマホやパソコンでインターネットをやる方も増えていて、ちょっと検索すれば情報が全部出てくるので、わざわざ電話するまでもなくなったのではないかな。家族の中に若い方がいれば、相談に来るよりもそちらのほうがずっと早いので。周りに特養や有料老人ホーム、グループホームがあり、センターに相談するよりも直接施設に相談した方が早いということもあると思う。

齋藤会長

現在の地域の実態が、計画段階とは変わってきたということかもしれない。

この「ふれあい祭」も、いずれは創生会だけでなく、エリア内の企業などと協力してやっていけるようになるといいのではないかなと思う。

その他、皆様から何か意見等はあるか。(なし)

事務局から何かあるか。(なし)

この会議は、次回は来年度で、計画の最終年度になるが、今後どうするのかについては事務局で検討していくことになるのか。

事務局

はい。

齋藤会長

それでは、全ての議事が終了したので、進行を事務局にお返しする。

渡辺主査（地域包括ケア推進課）

それでは、本日の協議会を終了する。